

超す質問に答えてもらう形ではなされた。

調査によると、質問に応じた人々の六六パーセントがカナダの一部としてどまった方が得たと信じており、一七パーセントが損だと答えている。

しかし、ケベックの今後のあり方については、わずか一五パーセントが現状維持に賛成しただけで、三九パーセントは新しい連邦体制一九パーセントが主権・連合、一七パーセントが独立を支持した。七パーセントは「わからない」。

州民投票の質問が、単に「あなたは独立に賛成ですか」というのであれば、一九パーセントが「はい」、七二パーセントが「いいえ」と答えるという。また七三パーセントがケベックはカナダにとどまった方がいいと考えているのに対し、二二パーセントが「カナダとは異なつた国」になるべきだ、としている。

五四パーセントは、州民投票を通じてケベック州政府に主権・連合について交渉する権限を与えてほしいとしているが、五九パーセントはケベックがカナダにとどまるという条件つきでそれに賛成している。また、ケベックが別個の国になつてもカナダとは提携するという条件で主権・連合を支持したのは四一パーセント、これに反対したのも同じく四一パーセント、一八パーセントがわからない、と答えている。

日本から七五〇〇万ドル ケベック州が借入れ

ケベック州政府は、このほど富士銀行を先頭とする日本の五銀行の融資団から、七千五百万ドルを借入れた。金利は年九・八五パーセント、貸付け期間は十五年（平均十二・五年）。ジャック・バリゾー・ケベック州蔵相は、八月初旬東京で契約書に調印した後、ケベック州と日本の間の取引関係がひじょうに良好であることを力説した。日本の銀行は最近数年間にハイドロ・ケベックおよびケベック州政府にたいし四件の同種の貸付けを行っている。これらの資金は一般的な用途に使われる予定。

カナダ政府、八公社を「売り」に カナデア、デハビランドなど

シンクレア・ステイブンス蔵出大臣は、九月末、民間に買い手があれば八つの国営企業（資産総額八億四千三百万ドル、従業員総数一万二千五百人）を譲渡する、と発表した。民営移行については、委員の対象がカナダ人に限られること、移行後も政府はその機能を持する権限を留保すること、などの条件をつけている。

「売り」に出された公社（うち三つは子会社）は次の通り。
●カナデア社（モントリオール）。一九七六年に連邦政府が米資本のゼネラル・ダイナミックス社から四千六百万ドルで買った航空機会社。長距離ビジネス機「チャレン

ジャー」で知られる。資産およそ二億四千七百万ドル。

●デハビランド・エアクラフト・オブ・カナダ社（トロント）。一九七四年に英国のホーカー・シドリー・グループから買った航空機会社で、トウイン・オッターやダツシユ7などの短距離離着陸機を製作している。

●エルドラード・ニユクリア社。一九四二年にウラン生産のため買った、カナダ唯一のウラン精製会社。子会社のエルドロー・リソーシスおよびエルドラード航空を含め、資産総額は推定三億一千五百万ドル。

●ノーザン・トランスポート・システム社（エドモントン）。北方のマッケンジー川盆地および北極西部一帯で陸上・海上輸送システムを運行している。子会社のグリムシヨール運送会社とも、過去五年間利益を上げていない。

老人ホームにソーラー・ハウス

太陽熱だけで暖房した二階建ての老人ホームが、このほどオンタリオ州南部のエイルマー市に建設された。

二十九部屋からなるこのアパート式の建物の地下には、容量約四万リットルの断熱水タンクが設置されている。南側に面した屋根に取り付けた集熱板のパイプにこの水を通す。これを続けると、夏の終りまでにタンクの水はかなり熱くなる。それを冬の期間、暖房用に使うわけである。

太陽熱のみで暖房したアパートは、カナダではこれが初めて。

ケベック、言語条例を緩和

ケベック州フランス語局は、このほどレベック内閣の承認のもとにケベックにおける英語その他の少数派言語の使用を規制したこれまでの言語条例にたいする州民の批判に応じて、新しい仏語化条例を発表した。

修正された新条例の主な趣旨は、広告、店舗のカタログ、会社名などへの英語使用の規制をゆるめること。また新条例は、言語憲章がケベックで開催される会議や専門家の討論会には適用されないことも明文化している。

地熱温水を暖房に レジヤイナ大学で研究

サスカチュワン州のレジヤイナ大学では、地下およそ二千メートルにある深層温水をくみ上げて暖房に利用する地熱ヒーティング・システムを建設している。

同様のプロジェクトはフランスとソ連でも行われているが、北米ではこれが初めて。この



システムが成功すれば、レジヤイナ大学の暖房費は一日約八百ドル節約され、十年で元がとれるという。

同大学では、今年一月、およそ深さ二千二百メートルの井戸を掘った。来年は、そこから一口ほど離れたところに二番目の井戸を掘る。最初の井戸から、深層の地熱で温められた塩水（摂氏約五十七度）をポンプでくみ出して、熱交換器を通したあと、二番目の井戸で地下へ戻す。熱交換器に水を通して地下温水の熱を吸収させ、それを通常の温水暖房システムの中を循環させる——という仕組みである。

地熱温水を使って、電力を起こすことも可能だという。

イ・ヘント

○九月 アルバート州対外貿易大臣が来日。エドモントンで北方圏環境会議。バンクーバーで日加紙バルブ会議。アルバータ州農務大臣が来日。ブリティッシュ・コロンビア州からベネット首相一行が来日。マイム劇団シアター・ピヨンド・ワーズが各地で公演（十一月まで）。

○十月 東京で開催された国際北太平洋漁業委員会の年次会議にカナダから代表団。カナダ・トレッド・センターで電子機器展およびカーペット・床材展。
○十一月 東京モーター・シヨウ（東京晴海埠頭）にカナダも出品。カナダ・トレッド・センターで紙・バルブ工業機器展。